まもり　つたえ　未来へつなぐ

春日山原始林を未来へつなぐ会

2014–2018 活動報告書

ご挨拶

春日山原始林を未来へつなぐ会　　会長　遊津隆義

活動報告書発行にあたりまして、これまで私たちの活動にご支援ご協力を賜りました多くの皆さまに心より御礼申し上げます。

2017 年 7 月に奈良県や保全計画検討委員会の要請を受け当会を設立し、早いものであっという間に 5 年が経過しました。設立当初から保全と普及啓発ワーキンググループに分かれ、保全は当時最も猛威を振るっていたなら枯れ対策を中心に、「カシナガトラップ」によるカシノナガキクイムシの捕獲やその後の殺菌剤の樹幹注入による防除、そしてナギの数量調整やナンキンハゼの駆除、植生保護柵の巡視管理、原始林内種子採取や後継樹育成などを実施。一方、普及啓発としては少しでも原始林の実状を知ってもらうべく観察会や各種イベントの開催、出前講座や環境教育さらにはエコツアーやガイド育成の実施など、様々な課題に直面した原始林に対し保全・普及啓発両面から果敢にチャレンジ頂きました。

近年は地球温暖化の進展による大雨や台風被害などの新たなリスクも加わり、また会員の高齢化も進む中、あらためて皆さまのこれまでの活動に感謝いたしますとともに、今回その活動の概要をまとめ報告書とさせていただき、また新たな次のステップに繋げたいと思います。

報告書の発行に寄せて

奈良県県土マネジメント部
まちづくり推進局次長兼 観光局次長　　志茂 佳成

平成３０年４月にまちづくり推進局勤務となり、御蓋山が仰げる場所に執務室を設けていただきました。

４月まで、平城宮跡歴史公園の仕事をしていた私にとって、遣唐使留学生「阿倍仲麻呂」が詠んだ「天の原、ふりさけ見れば　春日なる三笠の山に　出でし月かも」は親しみ深く、ガラス越しに見える御蓋山に秀麗な感じをうけていました。

一方、未来へつなぐ会の皆様からは、その背後にある春日山原始林の保全活動を伺い、８月に初めて原始林に入りました。
その時の感想を申し上げると、この市街地の隣接地に多くの巨樹、古木群と随所に信仰の形跡があることで限りない神秘性を体感しました。

しかし、反面この原始林にも荒廃が進んでおり、少しでも食い止めるための諸般活動を行っておられることも教えていただきました。

今年４月に奈良公園バスターミナルが開園しました。バスの乗降のみならず、奈良公園の自然、歴史の発信拠点としての機能も充実させていきたいと考えます。

未来へつなぐ会のご協力を得ながら、奈良公園の東に広がる御蓋山、春日原始林等の連山の環境が守られ、いつしかアカショウビンが囀る森となることを願うものです。

INDEX

1 設立の経緯・趣旨 ・・・・・・・・・・・・・・・2

2 保全・調査活動 ・・・・・・・・・・・・・・・・4

3 普及啓発活動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・6

4 外部団体との連携 ・・・・・・・・・・・・・・・8

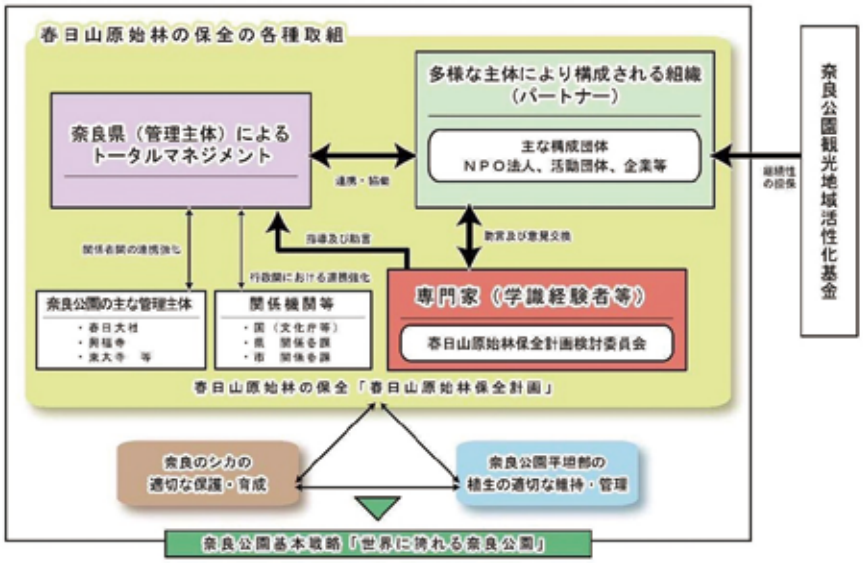
5 ご支援のお願い ・・・・・・・・・・・・・・・・9

設立の経緯・趣旨・組織概要

春日山原始林を未来へつなぐ会　設立の経緯

2011 年 6 月に奈良勤労者山岳連盟、日本野鳥の会奈良支部の共催で開催された「シンポジウム　世界遺産 春日山原始林では今、何が・・未来に引き継ぐために私たちにできること」と題したシンポジウムに、100 名以上が集まり、春日山原始林の危機的状況について周知される機会となりました。このシンポジウムを一つのきっかけとして、「春日山原始林市民連絡会」が発足。2012 年度より「奈良公園基本戦略」の中で「天然記念物の維持・管理」として「春日山原始林保全計画」が検討されることになりました。この検討委員会の中で「多様な主体により構成される組織（パートナー）」となる市民団体が必要という意見がなされ、奈良県からの要請を受け、前述の「春日山原始林市民連絡会」の他、県内で活動する環境 NPO として「NPO 法人ならストップ温暖化の会」、原始林内での巨木調査の実績を持つ「グリーンあすなら・巨樹巨木の会」の三会の有志が中心となり 2014 年 7 月に「春日山原始林を未来へつなぐ会」が設立されました。

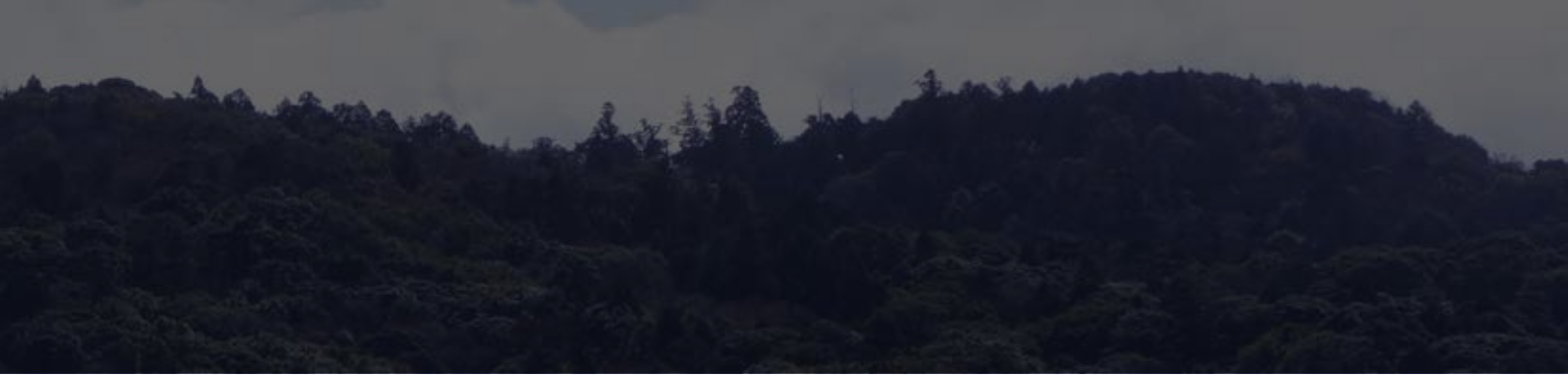
シンポジウムのチラシと当日の様子



春日山原始林の保全に向けた運営及び体制のイメージ（春日山原始林保全計画より）

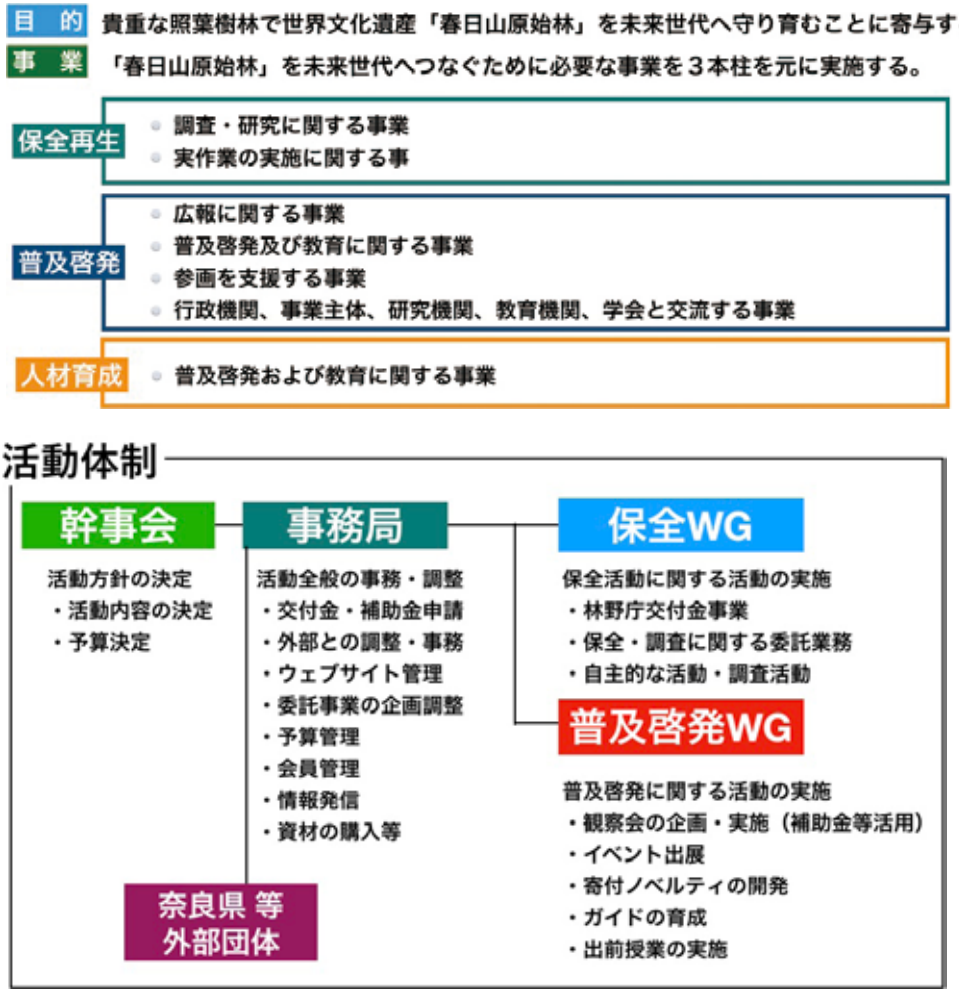
設立趣旨

春日山は、承和８年（841）の勅命により神山として狩猟伐採が禁じられるなど、近世以前から大切に守られてきました。このため、今日まで、原生的な状態を維持する貴重な照葉樹林として特別天然記念物に指定され、また、世界遺産「古都奈良の文化財」の構成資産にも位置づけられるなど、私たち奈良県民が世界に誇る財産であるといえます。しかしながら、近年、様々な研究者が指摘しているように、シカとの共生、後継樹や下層植生の衰退、ナラ枯れ被害の拡大、ナンキンハゼやナギの侵入など、原始林は様々な課題に直面し、その原生的な状態を維持していくことが非常に難しい状況にあります。このことは、観察会など、私たちが実際に原始林に接する機会においても、子どものころから慣れ親しんだ原始林が、刻一刻とその様相を変えていってしまっている危機的状況を痛感しているところでもあります。このままでは、私たちの子どもへ、世界に誇る春日山原始林を引き継いでいくことが難しいのではと考えています。 そこで、私たちは、管理主体である奈良県、春日山原始林の保全再生の全体計画を検討する有識者委員会と協働し、春日山原始林の保全再生に係る担い手として、私たちの子どもたち、さらにはその子どもたちへと、春日山原始林を未来へつないでいくことを願い本会を設立しました。



活動目的・組織概要

当会では、幹事・監査役からなる役員会および事務局を中心とし、保全活動と普及啓発の二つのワーキンググループを立ち上げそれぞれの活動を行なっています。（図参照）



活動の基礎づくり

設立翌年の 2015 年度に奈良県より「春日山原始林の活用と保全の担い手育成事業（緊急雇用）」を受託。３名を雇用し、保全コーディネート、エコツアー、ガイド育成の３つの分野での人材育成を行うことで、組織の基礎となる事務局体制の確立とワーキンググループの立ち上げにつなげることができました。

保全コーディネートでは、保全活動へ参加を希望する方々への研修、現地作業実習、奈良県担当部局との連絡調整や助成金等の申請など事務局業務全般を担う人材の育成と、保全活動を進めていくための仕組みづくりを行いました。

エコツアー、ガイド育成では、ガイド育成のためのテキストとして春日山原始林の自然・文化の情報を整理したガイドブックの作成。エコツアーの可能性のための資源調査検討や、トライアルツアーの実施のほか、外国人向けのガイドにも取り組みました。

保全・調査活動

保全活動

ナラ枯れ対策

2015 年度より、林野庁の「森林山村多面的機能発揮交付金（以下多面的機能交付金）」を活用して、春日山原始林内の一部地域において、ナラ枯れ対策として「カシナガトラップ」によるナラ枯れ防除対策を実施しています。2016 年度以降は林内約 20 箇所に設置して、カシノナガキクイムシの捕獲による防除を実施してきました。2018 年度を含めた３カ年（2015 年度は設置時期が遅かったため参考データとしては活用せず）の捕獲状況を比較し、カシナガの発生状況についてモニタリングも行なっています。

なお、2015 年度当初は奈良県も同様のトラップ設置による防除を行なっていましたが、2017 年度以降は、殺菌剤の樹幹注入による防除対策に方針転換を行なっており、当会においても一部同様の対応を実施しています。

ナギ数量調整・ナンキンハゼ駆除

ナギ数量調整については、つなぐ会発足の前の 2014 年 4 月に一部実施したほか、2015 年度に指定された植生保護柵周囲 10m の範囲で実施しました。

ナンキンハゼ駆除については、2016 年度に植生状況の調査を実施。その後は毎年発生する実生を駆除する作業を行う他、活動エリア内での親木については、樹皮を削り取る「巻き枯らし」を行い、生息範囲の拡大抑制を行なっています。一方で、シカの採食圧が高い状況において、実生を駆除することが適切かどうかなど、「外来種＝悪」と単純化できない課題も抱えています。

植生保護柵の巡視・管理

奈良県では「春日山原始林保全計画」に基づき、2013 年度から 2016 年度にかけて春日山原始林内に 36 箇所の植生保護柵を設置しました。当会では、2015 年度より、一部の植生保護柵の巡視・管理作業に取り組みはじめ、現在では 36 箇所すべての保護柵の巡視をおこなっています。保護柵は斜面に設置されていることが多いため、堆積物の除去やイノシシ等によるネットの破損の補修作業を合わせておこなっています。

2018 年度は、台風などの影響により、倒木や土砂の流出等により、多くの保護柵が破損するという事態が発生しました。支柱の倒壊など修復が不可能な場合を除いて、できる限りシカの侵入を阻害するような形で仮補修を行うこととしています。

原始林内種子採取・後継樹育成

奈良県では、ナラ枯れ等の影響で原始林内のシイ・カシ類が倒木してしまう前に、種子を採取し、苗木を育てていくことで原始林の遺伝的多様性を維持していくこと、また、有効な回復が見込めない場合は植樹することも計画しています。当会では、原始林内での種子採取のほか、会員に協力を要請して苗木を預かっていただき３年間に渡り育成に協力しました。

左上：トラップで捕獲したカシノナガキクイムシ
中上：ナンキンハゼの幼木。伐採しても根に近い部分から萌芽している。
右上：カシナガトラップの管理作業
左中：温湿度計データの収集の様子
中央：ナギの植生状況調査の様子
右下：植生保護柵管理作業。堆積物の除去作業中
左下：植生保護柵内の様子（2019 年 5 月）

調査活動

原始林内微気象調査

春日山原始林の気象がどのような傾向があるのかという基礎情報を掴むために標高の異なる３箇所で、温度・湿度がどのように変化しているかのデータを収集しています。

ナギ植生状況調査

2015 年度に春日山原始林内において、ナギの拡大傾向にある地域を特定し、効果的な数量調整作業を進めていくために、原始林内にどの程度分布しているかを調査しました。

イノシシ活動調査

2016 年度に奈良公園平坦部でイノシシによる芝の掘り返しが頻発しました。これを受けて春日山原始林内でもイノシシの活動状況を調査しました。保全ワーキンググループで手分けして原始林内を歩き、イノシシの掘り返し痕を記録。それをまとめることで、イノシシの活動が活発なエリアを予測しました。

普及啓発活動

普及啓発活動

春日山原始林入門講座

設立当初に会員向けの基礎学習のためにテーマに分けて座学（一部現地視察）の基礎講座を実施。基礎編、植物編、動物編の３回に分け実施しました。

春日山原始林入門講座

第1回　基礎編　2015 年 1 月 29 日
記念講演「春日山原始林への思いを語る」小船武司 氏（元奈良の鹿愛護会事務局長）
「春日山原始林の保全再生」 奈良県まちづくり推進局奈良公園室

第2回　植物編　2015 年 2 月 26 日
「春日山原始林の森林生態系」前迫ゆり 氏 （大阪産業大学大学院教授）
「春日山原始林の巨樹」 甲斐野幸一 氏 （グリーンあすなら・当会副会長）

第3回　動物編　2015 年 3 月 26 日
「春日山原始林のニホンジカとその他の哺乳類」鳥居春己 氏（奈良教育大学特任教授）
「春日山原始林の野鳥」 川瀬浩 氏（日本野鳥の会奈良支部・当会副会長）
「春日山原始林の未来　来場者フリーディスカッション」

会場　国際奈良学セミナーハウス　研修室

世界遺産春日山原始林観察会

市民の皆さんに春日山について知っていただくための観察会です。2014 年度の設立から 2018 年度まで、中止した分も含めて合計 22 回の観察会を企画・実施。植物や動物をテーマにしたものから、シカと人の歴史や文化について学ぶ機会のものなど、幅広いテーマで実施しています。（表参照）

世界遺産春日山原始林観察会　実施一覧（講師名：敬称略）

第 1 回	巨樹・巨木編	講師：甲斐野幸一	('14/11/30)
第 2 回	地形編	講師：久保田有	('15/11/30)
第 3 回	野鳥・両生類編	講師：井上龍一、揉井千代子	('15/05/24)
第 4 回	植物編	講師：菅沼孝之	('15/12/29)
第 5 回	鹿垣編	講師：渡邊伸一	('16/02/27)
第 6 回	鹿編	講師：奈良の鹿愛護会	('16/04/24)
第 7 回	野鳥今昔編	講師：小船武司	('16/05/22)
第 8 回	植物編	講師：松井淳	('16/07/02)
第 10 回	野鳥編	講師：揉井千代子	('17/01/29)
第 11 回	ナラ枯れ編	講師：田中正臣	('17/02/26)
第 12 回	「cm の世界」コケの世界から春日山原始林を考える	講師：河原宏吉	('17/06/18)
第 13 回	悠久の森とシカの関係	講師：前迫ゆり	('17/09/09)
第 14 回	バードウォッチング in 春日	講師：川瀬浩ほか 2 名	('18/01/21)
第 15 回	鹿垣を巡る	講師：渡邊伸一	('18/01/28)
第 16 回	奈良町の変遷から鹿を考える	講師：東城義則	('18/03/17)
第 17 回	春日山原始林を歩いて、生態学から森林を考えてみよう	講師　前迫ゆり	('18/07/01)
第 18 回	春日山交流ウォーキング		('18/07/07 ※雨天により中止)
第 19 回	今が一番ピッカピカ！ 森の宝石「ルリセンチコガネ」を探そう！	講師：中村圭一	('18/10/21)
第 20 回	奈良公園でドングリと遊ぼう	講師：酒井二郎	('18/11/04)
第 21 回	原始林でネイチャーゲーム！	講師：山本素世	('18/11/18)
第 22 回	春日山遊歩道一周ウォーク		('19/01/20 ※雨天により中止)
第 23 回	原始林を生きぬくコケの世界	講師：木村全邦	('19/02/02)

上：春日山原始林観察会「原始林を生き抜くコケの世界」の様子（2019 年 2 月）
下：校外学習支援の様子。若草山山頂にて

奈良県山の日・川の日イベント

奈良県が全小学校に配布している奈良県山の日・川の日」「山と川の月間」イベントガイドブックへ情報掲載するイベントです。夏休みのプログラムは多くの子ども達に春日山について知っていただく機会として期間中３回のプログラムを実施しています。また､助成金を活用してプログラム集を作成し､学校などに配布しています。

原始林ガイドツアーの検討・人材育成

2015 年度の人材育成事業の際に、トライアルとしてエコツアーの企画・実施を行いました。少人数対象で、「五感で感じる」をテーマに、音を感じたり、匂いを探したりするなど、通常の観察会とは異なるアプローチを試行しました。また、人材育成事業の実施の際に作成した「春日山原始林ガイドブック」を元に、会員の中で今後ガイドとして活躍いただく方を育てる研修を行なっています。定期的に原始林遊歩道を歩き、季節の自然について知るとともに、原始林の現状についても正しく理解し、伝えるための対応についても学んでいます。

そのほか、団体や旅行社からの依頼で春日山原始林のガイドツアーの対応をしています。県内外の環境団体や、企業の社会貢献としてのクリーンウォークの依頼などに対応しています。

イベントでのブース出展・講演対応

2015 年度より、奈良公園で開催されるアースデイ奈良などのイベントにブース出展しています。2017 年度からは、会員が制作したクラフト作品を寄付の返礼品として位置付け寄付の依頼を行うなど広がりを見せています。2018 年は、近鉄奈良駅での募金活動も含め計７回のイベント出展を行いました。

また大学や環境団体、シニア向けセミナー等の場で春日山原始林のことをお伝えする講演会や講義にも対応しています。2017 年度には、東京のまほろば館にて、講演会を実施したほか、奈良県観光局に協力して東京駅近くの施設にてトークイベントに登壇するなど、県外の方へも原始林の魅力と現状を伝える活動を行なっています。

環境教育への取り組み

春日山原始林を校区にもつ小学校に対して、遠足や校外学習での環境教育支援を行なっています。また、2018 年度から奈良市環境政策課が進める環境教育事業「エコキッズならの子ども」の講師団体として、小学校での出前授業の取り組みも進めています。また、奈良教育大学が中心となって進めている「近畿 ESD コンソーシアム」でも教員の方々と春日山原始林をテーマとした授業づくりセミナーに講師として参画し、春日山原始林を活用した環境教育（ESD）にも取り組んでいます。

ノベルティグッズや寄付商品の開発

春日山の中にある人工林エリアの間伐材を活用して、寄附いただいた方への返礼品の開発や、滝坂の道（柳生街道）の首切り地蔵横にあった春日杉の端材を活用した会員のクラフト制作など、原始林の資源を活かしたノベルティグッズの開発を行なっています。間伐材を活用した返礼品は、社会福祉法人と連携して木札を制作するなど、外部団体との連携も積極的に行なっています。

外部団体との連携

アースデイ奈良

実行委員会に参画し、共催団体として運営に関わっています。2017 年からは損保ジャパン日本興亜（株）の生物多様性保全の活動支援「SAVEJAPAN プロジェクト」の一環として、奈良公園や春日山原始林の自然を楽しむプログラムを他団体と連携して実施する「春日山自然学校プロジェクト」に取り組んでいます。

SAVE JAPAN プロジェクト

損保ジャパン日本興亜（株）の社会貢献活動として実施している生物多様性保全の活動支援プロジェクトです。奈良県では、奈良 NPO センターと連携して「春日山自然学校プロジェクト（前述）」や奈良県、春日大社、近畿 ESD コンソーシアムと連携したシンポジウム「未来へつなぐ春日山原始林の価値と魅力」を実施しました。

森の集い

奈良オーガニックマーケット（当時）、森の集い実行委員会と連携して、春日山原始林をテーマに「森の集い」という屋外イベントを奈良公園春日野園地で実施しました。県内外から自然と寄り添う暮らしをテーマにしたブースが数多く出展しました。当会は、原始林や奈良公園の巨樹に親しむツアーを実施しました。実施日：2016 年 6 月 4 日(土)5 日(日)

エコキッズならの子どもの様子

春日山授業づくりセミナー

奈良教育大学が中心となり持続可能な開発のための教育：ESD を進める、近畿 ESD コンソーシアムに 2017 年より参画し、2018 年より春日山原始林を活用した教員との授業づくりセミナーを行っています。実際の授業試行では、出前授業や現地フィールドワークなどにも協力し、春日山原始林の授業化にむけて実践的な取り組みを進めています。

春日山人工林間伐材を活用した木札制作

春日山人工林エリアに放置された間伐材を活用して、当会宛の寄附、奈良公園観光地域活性化基金への寄附などの返礼品をアートで障害のある方々の仕事づくりに取り組んでいる社会福祉法人わたぼうしの会の施設「Good Job ！センター香芝」と連携して制作しました。現地でのフィールド体験やワークショップを通じてデザインされた文字ロゴと４つのモチーフを元に木札を制作しました。

エコキッズならの子ども

奈良市環境政策課が進めている環境教育支援事業「エコキッズならの子ども」の講師団体として 2018 年度より登録しています。市内の小学三年生を対象とした出前授業を実施するほか、関連するイベント等での出展なども行っています。

春日山原始林フォトブックの制作協力

外国人観光客へ春日山原始林を PR するために原始林の写真を中心とした冊子の制作に協力し、一部の写真提供や情報提供を行いました。冊子は英語版、日本語版を制作し、主に観光エージェント向けに配布されたほか、奈良県ビジターセンター（猿沢イン）で外国人向けのパンフレットとして配布されています。

ご支援のお願い

入会して活動へ参加・支援する

当会では、会員を募集しています。会員の種別・会費等については以下の通りです。

正会員（個人）

本会の会員全てが「正会員」です。活動への主体的な関わりだけでなく、各自の得意分野を活かして活動いただけます。活動への参加は必須ではありません。

年会費：2000円

賛助会員（団体）

本会の目的に賛同し、活動を支援いただく企業・団体様向けの会員です。
活動状況をお知らせするニュースレターを無料配信いたします。

年会費：50,000円

寄付をする

当会の活動を継続していくための寄付を募集しています。当会への寄付は直接寄付いただく形と、税制の優遇措置が受けられる「奈良公園観光地域活性化基金」への寄付をお選びいただけます。寄付いただいた方には、金額に応じて返礼をさせていただきます。

奈良公園観光地域活性化基金

奈良公園観光地域活性化基金は、奈良県が皆さまからの寄附金を財源として、伝統行事又は観光振興事業、文化財の修復事業、歴史的建造物の再建事業、その他奈良公園の観光資源としての価値を高める事業を支援することにより、奈良公園及びその周辺地域の活性化を図ることを目的とした基金です。当会は「春日山原始林保全再生事業」の実施団体として登録しています。

税制優遇について

個人での寄付については、所得税、住民税からの還付、企業の場合、法人税は寄付金の全額を損金算入として取り扱うことができるなどのメリットもございます。詳細は、お問い合わせください。

【基金のしくみ】

未来へつなぐべき
春日山原始林のすがた

木々や草花、
シカや野鳥をはじめとする
生き物たちが共生し、
いのちを紡ぎ合う
『豊かな森』

訪れたわたしたちの
五感に働きかけ、
リフレッシュさせてくれる
『癒しの森』

人の営みと共に
護られてきた歴史や
文化が息づく
『神の森』

春日山原始林を未来へつなぐ会

〒631-0032
奈良県奈良市あやめ池北3丁目12-27 奈良ストップ温暖化の会内
http://kasugatsunagu.com　info@kasugatsunagu.com
TEL & FAX：0742-49-6730